

東京大学における試行運用現況報告

1. システム面

中間報告時以降の進展

NIIとの間でOAI-PMHによるハーベスティングを可能とするための改修を行い、10月上旬に実験成功。
以降、大きな変化・進展はない。

<http://eptest100.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>

2. 試行運用も含めた機関リポジトリ構築に関する動き

(1)「機関リポジトリ構築計画」(案)の作成

報告書原稿執筆後、図書館側から案に対して意見あり。

- どの時点までを「試行」ととらえるか？
- 具体的期日(年度)の設定
- 各STEPにおける行動計画の変更、入れ替え など

デジタル・ライブラリ係で再検討の上、再提出。
(この計画の最終的な扱いがどうなるのか、不明・・・)

(2)コンテンツの収集

- 附属図書館長、柏図書館長、情報基盤センター長の「博士学位論文」をPDF化してEprintsに登録。

- 次は学術雑誌掲載済み論文がターゲット。まず附属図書館長の論文から。

(報告書に記述した「情報システム室委員」への働きかけは諸般の事情により当面様子見)

- 学術雑誌掲載済み論文の収集は「千葉大方式」(?)で。
=ターゲットとする教員の緑化誌掲載済み論文を調査・リスト化し交渉。
登録作業はデジタル・ライブラリ係で。

3. 現状の問題点あるいは脆弱性

(1)今のところ、場当たりの「思いつき」と「個人プレイ」で動いている？！

= 機関リポジトリ構築の検討に当たる教員も含めた「〇〇委員会」のようなものが存在しない。

(2)情報基盤センターがメインの事業なのか、図書館がメインの事業なのか、あるいは双方の役割分担について未だ曖昧な点が多い。

それらの曖昧な部分を詰めていくのも「試行のうち？」

4. その他の状況

- ・次期システムリプレイス(平成18年3月)との関係
今のところ次期図書館業務システムの中に、機関リ
ポジトリ機能を含める・・・方向で仕様書案検討中